

アセットアロケーション・ファンド

(安定型) / (安定成長型) / (成長型) 愛称：らっぷちゃん



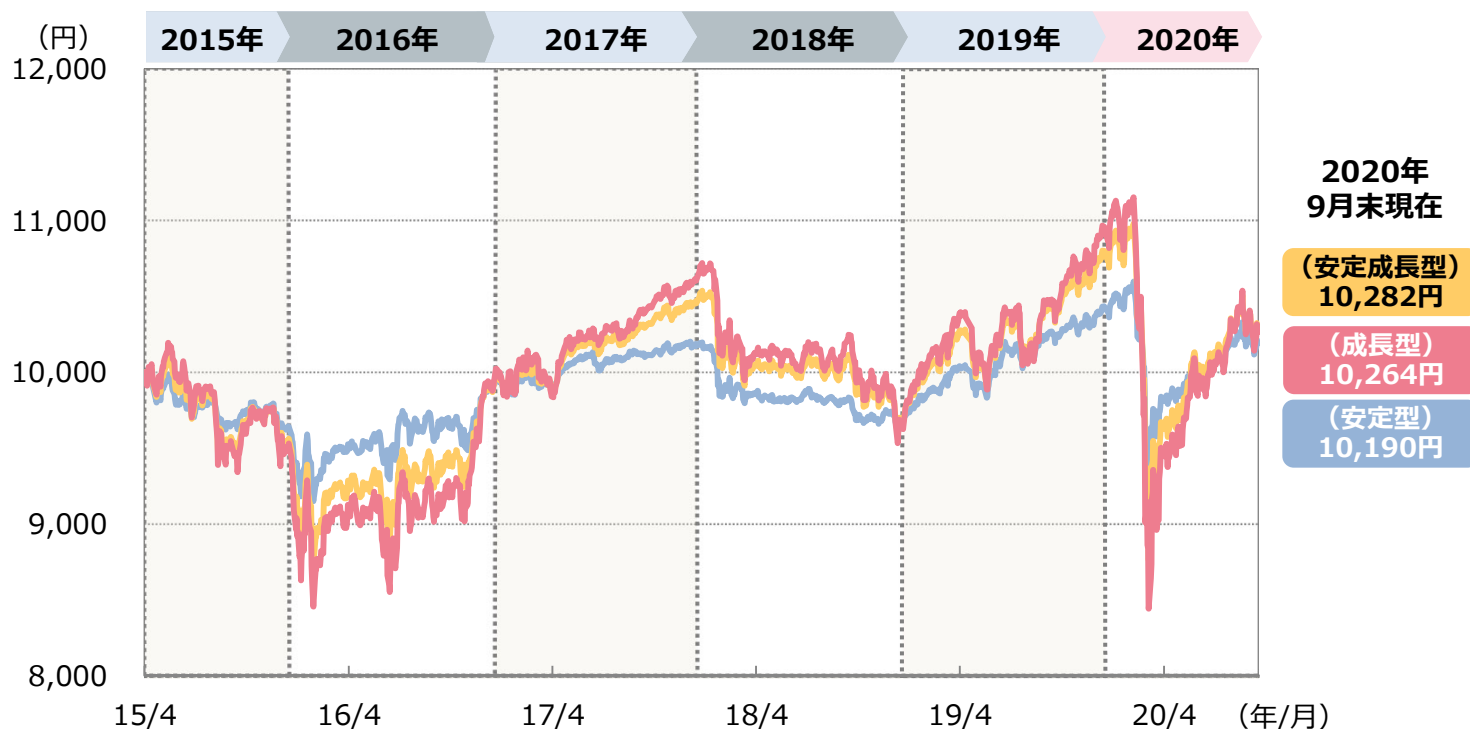
設定来のパフォーマンスはプラスに回復

平素は「アセットアロケーション・ファンド (安定型) / (安定成長型) / (成長型) 愛称：らっぷちゃん」(以下、当ファンド) をご愛顧賜り厚く御礼申し上げます。本資料では、当ファンドの運用状況と当面の市場環境等についてご報告申し上げます。

コロナショックによる下落後、パフォーマンスは反発局面に

- 当ファンドは、2019年の良好なパフォーマンスの流れを受け、2020年2月中旬までは堅調な推移となりました。
- 2020年2月の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、ほぼすべての組入資産（株式、債券、リート等）が下落し、基準価額は大幅な下落となりました。
- しかし、3月下旬以降、主要国・地域による金融・財政政策の発動や新型コロナウイルスのワクチン開発期待の高まり等を受け、金融市場は総じて反発局面となり2020年9月末現在の基準価額は10,000円を上回る水準となりました。

<当ファンドの基準価額の推移> (2015年4月16日（設定日前日）～2020年9月末）



<当ファンドの年間騰落率 (%)> (2015年4月16日（設定日前日）～2020年9月末）

| ファンド | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 設定来 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 安定型 | ▲3.6 | 2.7 | 2.7 | ▲4.8 | 7.8 | ▲2.4 | 1.9 |
| 安定成長型 | ▲4.4 | 3.5 | 5.7 | ▲7.2 | 11.3 | ▲4.8 | 2.8 |
| 成長型 | ▲4.7 | 3.8 | 7.2 | ▲8.6 | 13.2 | ▲6.4 | 2.6 |

(注1) 当ファンドの基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後。2015年4月16日（設定日前日）の基準価額を10,000円としています。当ファンドは2020年9月末現在において分配を行っておりません。

(注2) 年間騰落率の2015年は2015年4月16日から年末まで、2020年は年初から9月末までの騰落率。

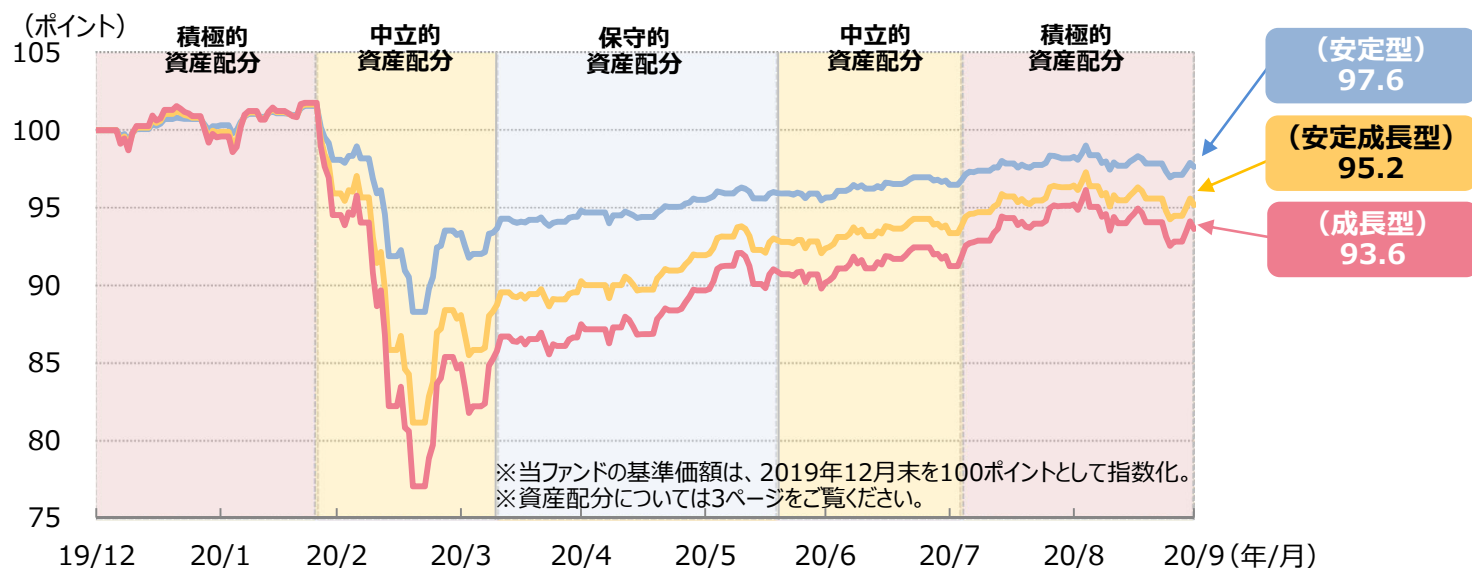
※上記は過去の実績であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは7ページをご覧ください。

2020年の当ファンドの基準価額の推移

- 当ファンドの基準価額は、2月下旬以降、**新型コロナウイルスの感染拡大による世界景気の減速等から、金融市場のリスク回避姿勢が強まり、大幅に下落しました。**
- 3月下旬以降は、**主要国・地域の積極的な金融政策や経済対策等から反発局面となり、緩やかながらも上昇基調**となっています。

<当ファンドの基準価額と資産配分の推移> (2019年12月末～2020年9月末)



(注) 当ファンドは2020年9月末現在において分配を行っておりません。

2020年の個別資産のパフォーマンス寄与

- 2020年(9月末現在)は、新型コロナウイルス感染等の影響により、組入資産においてはマイナス寄与の資産が多いなか、**安定型、安定成長型、成長型のいずれにおいても先進国債券はプラス寄与**となっています。

<基準価額の変動幅と個別資産の寄与額(単位:円)> (2019年12月末～2020年9月末)

| | | 安定型 | 安定成長型 | 成長型 |
|---------------------|-----------|--------|--------|--------|
| 基準価額 | 2019年12月末 | 10,436 | 10,803 | 10,962 |
| | 2020年9月末 | 10,190 | 10,282 | 10,264 |
| 基準価額の変動幅 | | ▲246 | ▲521 | ▲698 |
| 基準価額 変動への 寄与額 | 先進国株式 | ▲97 | ▲143 | ▲184 |
| | 新興国株式 | ▲50 | ▲38 | ▲51 |
| | リート | ▲88 | ▲187 | ▲219 |
| | 先進国債券 | 212 | 124 | 62 |
| | 新興国債券 | ▲29 | ▲34 | ▲40 |
| | 通貨 | ▲105 | ▲151 | ▲170 |
| | その他 | ▲88 | ▲92 | ▲94 |

(注1) 基準価額は、1万口当たり、信託報酬控除後。当ファンドは2020年9月末現在において分配を行っておりません。

(注2) 寄与額は2019年12月末～2020年9月末までの累計値。基準価額の変動額を簡便法により主な要因に分解したもので概算値です。その他は信託報酬等の寄与額。

(注3) 各ファンドは、2020年9月末現在で積極的資産配分としています。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

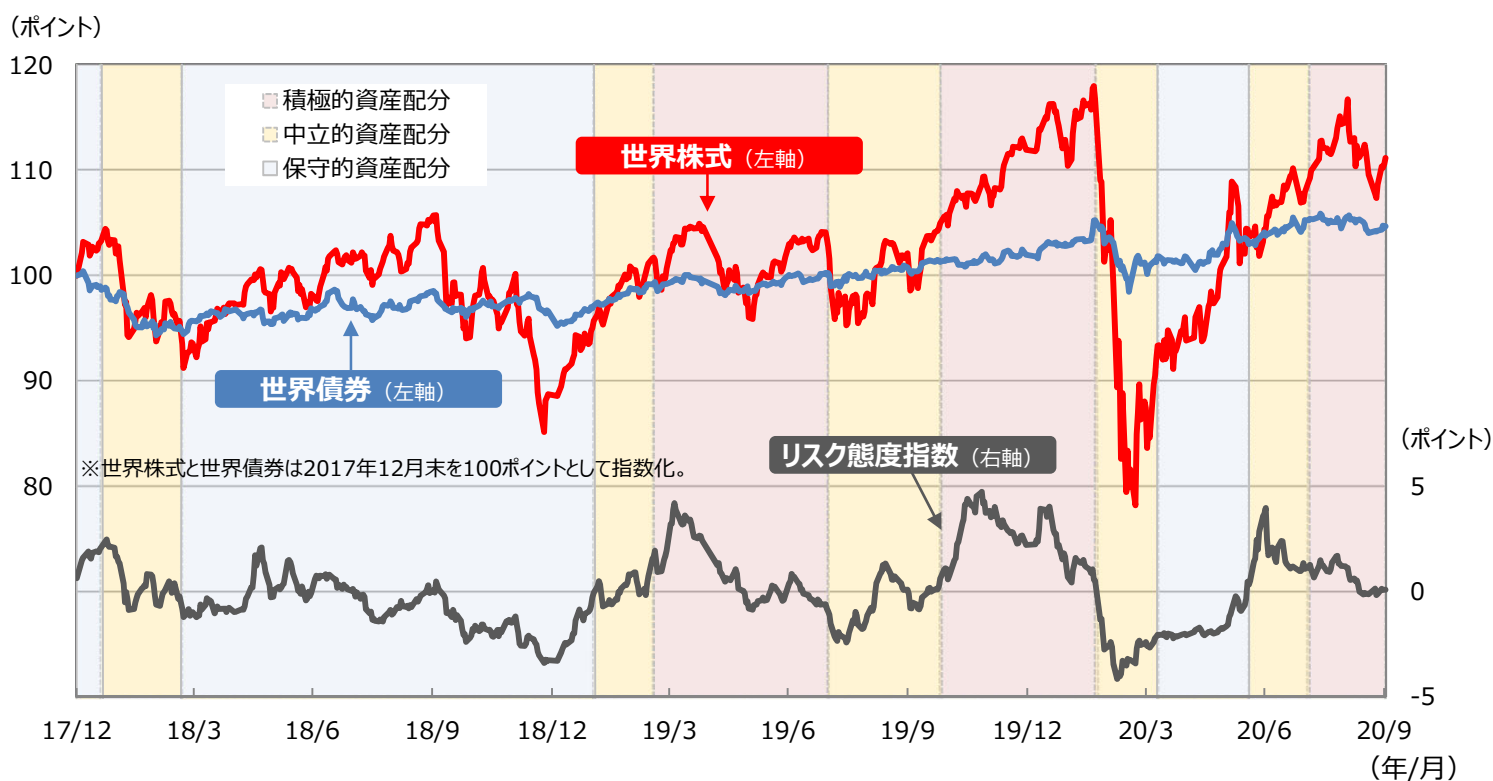
※ファンド購入時には、購入時手数料がかかる場合があります。また、換金時にも費用・税金などがかかる場合があります。詳しくは7ページをご覧ください。

リスク態度指数からみた当面の金融市場の見通しと運用方針

- 2020年8月以降、金融市場はリスク選好度の高いリスクオン局面（リスク選好局面）にあり、当面は株式等のハイリスク資産ほど高いリターンが期待できると見込まれます。
- 一方、当ファンドが金融市場のリスク選好度の判断に利用しているリスク態度指数*が、緩やかな低下傾向を続けていることから、金融市場はリスクオフ局面（リスク回避局面）に転じる可能性があると考えています。
- 金融市場のリスク選好状況がリスクオフ局面へ転じる可能性が高まったと判断した場合、当ファンドの資産配分を現在の「積極的資産配分」から「中立的資産配分」に変更します。

*リスク態度指数は三井住友DSアセットマネジメントが独自開発した、世界の債券や株式をはじめとする多様な資産の市場価格動向を基に市場のリスク選好状況を判断するツールです。

<当ファンドの資産配分とリスク態度指数、金融市場（円ベース）の推移>（2017年12月末～2020年9月末）



(ご参考) 当ファンドの資産配分変更の考え方について

- 金融市場には、株式等のハイリスク・ハイリターン資産が選好されるリスクオン局面（リスク選好局面）と、債券等のローリスク・ローリターン資産が選好されるリスクオフ局面（リスク回避局面）が交互に現れる傾向があります。
- 当ファンドでは、リスク態度指数等を参考にしながら市場のリスク選好状況を把握することで、リスクオン局面では高リターンが期待できる高リスク資産中心の「積極的資産配分」に、リスクオフ局面では低リスク資産中心の「保守的資産配分」に、リスク選好の移行期にはリスク中立的な「中立的資産配分」に変更しています。
- 2018年～2020年9月末までで10回の資産配分の変更を実施しました。現在は株式等への投資比率が高く、最も高いリスクである一方で、最も高いリターンが期待される「積極的資産配分」としています。（上図）

(注) 世界株式はMSCI AC ワールド・インデックス（配当込み）、世界債券はブルームバーグ・バークレイズ・グローバル総合。いずれも当ファンドのベンチマークではありません。

(出所) Bloomberg

※上記は過去の実績ならびに当資料作成時点の見通しと運用方針であり、当ファンドの将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。今後予告なく変更する場合があります。

ファンドの特色

- 投資信託証券等への投資を通じて、世界各国の債券、株式および不動産投資信託（リート）等に分散投資します。
 - 主として、インデックスファンドや上場投資信託証券（ETF）への投資を通じて、以下の資産等に投資します。
 - 〔債券〕：国内債券、先進国債券（除く日本）＊1、新興国債券＊2、ハイイールド債券＊2
 - 〔株式〕：国内株式、先進国株式（除く日本）、新興国株式
 - 〔リート〕：国内リート、外国リート
 - ＊1 対円で為替ヘッジを行う投資信託証券を組み入れることがあります。
 - ＊2 当該資産を投資対象とする外貨建投資信託証券に対して対円で為替ヘッジを行うことがあります。
- 資産配分比率は、ラップ口座の投資助言に実績を持つ日興グローバルラップおよびエドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント（ルクセンブルグ）からの投資助言を基に決定します。
 - 日興グローバルラップから、「安定型」・「安定成長型」・「成長型」の各ファンドの3つの基本資産配分（「保守的」・「中立的」・「積極的」資産配分）に関する投資助言を受けます。また、エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・アセット・マネジメント（ルクセンブルグ）から、世界経済の見通しと組入資産の投資見通しに関する投資助言を受けます。
 - 市場のリスク選好状況に応じて、「保守的」・「中立的」・「積極的」資産配分のいずれかに調整します。市場のリスク選好状況の判断には、委託会社独自のリスク態度指数を使用します。
- 目標リスク水準の異なる「安定型」・「安定成長型」・「成長型」の3つのファンドからお選びいただけます。各ファンド間でのスイッチングが可能です。
 - 「安定型」：信託財産の安定性を重視した運用を行います。
 - 「安定成長型」：信託財産の安定性と収益性のバランスを重視した運用を行います。
 - 「成長型」：信託財産の収益性を重視した運用を行います。
 - 一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。また、スイッチングが行えない場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

※ 各ファンドの略称として、それぞれ以下のように表示しています。

アセットアロケーション・ファンド（安定型）⇒安定型

アセットアロケーション・ファンド（安定成長型）⇒安定成長型

アセットアロケーション・ファンド（成長型）⇒成長型

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

投資リスク

■ 債券市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により債券相場が下落（金利が上昇）した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、ファンドが保有する個々の債券については、下記「信用リスク」を負うことにもなります。

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

リートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度（税制、建築規制、会計制度等）の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値、賃貸収入等がマーケット要因によって上下するほか、自然災害等により個々の不動産等の毀損・滅失が生じる可能性もあります。さらに個々のリートは一般の法人と同様、運営如何によっては倒産の可能性もあります。これらの影響により、ファンドが組み入れているリートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

外貨建資産への投資は、円建資産に投資する場合の通常のリスクのほか、為替変動による影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落（円高）する場合、円ベースでの評価額は下落することがあります。為替の変動（円高）は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

実質外貨建資産の一部に対し、原則として対円で為替ヘッジを行うため、為替の変動による影響は限定的と考えられます。なお、対円での為替ヘッジ比率は、資産配分の調整に伴い変動します。

■ カントリーリスク

海外に投資を行う場合には、投資する有価証券の発行者に起因するリスクのほか、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化や混乱などによって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
 - 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
 - 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

2028年4月26日まで（2015年4月17日設定）

決算日

毎年4月26日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

お申込不可日

以下のいずれかに当たる場合には、購入・換金のお申込みを受け付けません。

- ニューヨークの取引所の休業日
- ニューヨークの銀行の休業日

スイッチング

販売会社によっては、各ファンド間でスイッチングを取り扱う場合があります。また、販売会社によっては一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に1.10% (税抜き1.00%) を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年1.023% (税抜き0.93%)の率を乗じた額です。
※投資対象とする各投資信託の管理報酬を含めた場合、概算値は以下の通りとなります。
安定型……………年1.02937% (税抜き0.93637%) ~年1.09714% (税抜き1.00414%) 程度*
安定成長型……………年1.04257% (税抜き0.94957%) ~年1.12115% (税抜き1.02815%) 程度*
成長型……………年1.04779% (税抜き0.95479%) ~年1.13869% (税抜き1.04569%) 程度*
※基本資産配分および管理報酬率を用いた試算の結果であり、基本資産配分の見直しおよび実際の組入れ状況等により変動します。
※新興国債券の費用は、管理報酬より高いETFの数値を用いて試算しています。
*投資対象とする投資信託の運用管理費用には、年間最低報酬額等が定められている場合があるため、純資産総額によっては、上記の料率を上回ることがあります。
 - その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただけます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※監査費用の料率等につきましては請求目論見書をご参照ください。
- ※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

| | |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委託会社 | ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 【受付時間】 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く） |
| 受託会社 | ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社 |
| 販売会社 | ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。 |

販売会社

| 販売会社名 | 登録番号 | 日本証券業協会 | 一般社団法人 金融商品取引業協会 | 日本一般社団法人 投資顧問業協会 | 金融先物取引業協会 | 一般社団法人 投資信託協会 | 備考 |
|---------------|---------------------------|---------|---------------------|---------------------|-----------|------------------|----|
| auカブコム証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号 | ○ | | ○ | ○ | | |
| SMB C日興証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 株式会社SBI証券 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号 | ○ | ○ | | ○ | | |
| フィデリティ証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第152号 | ○ | | | | | |
| 松井証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号 | ○ | | | ○ | | |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 株式会社栃木銀行 | 登録金融機関 関東財務局長（登金）第57号 | ○ | | | | | |
| 株式会社福岡中央銀行 | 登録金融機関 福岡財務支局長（登金）第14号 | ○ | | | | | |

重要な注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。